

平成20年7月

# 高島一昭 学位論文審査要旨

主 査 井 上 幸 次  
副主査 林 一 彦  
同 西 連 寺 剛

## 主論文

A new animal model for primary and persistent Epstein-Barr virus infection: Human EBV-infected rabbit characteristics determined using sequential imaging and pathological analysis

(Epstein-Barrウイルスの初感染および持続感染の新しい動物モデル：経時的な画像および病理解析によるEBV感染ウサギモデルの特徴)

(著者：高島一昭、大橋誠、北村幸郷、安藤健介、長島賢典、杉原弘貢、奥野啓介、西連寺剛、林一彦)

平成20年 Journal of Medical Virology 80巻 455頁～466頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、EBVを日本白ウサギに静注し経時的に画像診断や血液検査等で詳細に病態検索をしたものである。その結果、一過性の脾腫や脾臓内腫瘤の形成、抗EBV-VCA抗体価や末梢血中のEBV-DNAの上昇が認められ、EBER-1陽性リンパ球細胞のEBV遺伝子発現パターンは、潜伏感染のⅡ型かⅢ型もしくは早期の溶解感染に合致し、ヒトのEBVの初期感染に類似した病態を示した後、様々の宿主反応を示すことを見いだした。

本論文の内容は、ヒト以外ではごく一部の希少なサルにしか感染が知られていなかったEBVのウサギへの感染性を初めて明確に示し、EBV感染ウサギが、EBVのヒト初感染および持続感染のよい実験モデルになることを示した。今後のEBVの研究に大いに貢献をもたらすことが予想され、明らかにウイルス学と感染病理学の学術水準を高めたものと認める。